

6. 長寿命化計画の継続的運用方針

6.1 情報基盤の整備と活用

本計画を推進する上では、学校施設における情報の蓄積が重要となります。

このため、学校施設の施設基本情報や工事情報、修繕履歴情報、さらには、日常点検や業務委託による各種点検情報を毎年度更新しながら、予防保全型コスト算定や継続的な施設管理に活用できるよう一元管理することとします。

6.2 推進体制の整備

「志木市公共施設等マネジメント戦略」による全庁的な基準・方針を踏まえ、本計画を継続的に運用していくため、学校と連携しながら教育総務課が中心となって関係部署と協議・調整を行い、取組を進めていくこととします。

6.3 財源の確保

安全・安心で快適な教育環境を維持するためには、財政支出面で大きな負担となることから、今後も、国の補助事業や有利な地方債を積極的に活用し、財政負担の軽減を図ることとします。

6.4 フォローアップ

本計画に基づき、学校施設整備を進めていくためには、計画(Plan)→実施(Do)→評価(Check)→改善(Action)のPDCAサイクルを確立することが重要です。

計画(P):施設の現状を把握した上で、それを踏まえた実施計画を策定(10年間)

実施(D):実施計画に基づいた改修等の実施

評価(C):実施効果を検証し、改善点の整理

改善(A):次期実施計画に反映

また、本計画は、学校施設改修等の優先順位を設定するものであり、実施にあたっては、市全体の財政計画の中で、実施年度及び事業費を精査するものとします。

さらに、事業の進捗状況・点検等結果を反映し、社会情勢や財政面を踏まえた上で、必要に応じて見直しを図るものとします。